

くすの木通信

三高だより第 213 号

「夢をかなえる三島高校 ―現実が厳しいからこそ自分の夢を―」

校長 宮内 俊洋

「夢をかなえる三島高校」というスローガンには、私たち三島高校の教育理念が凝縮されています。ただ、単に夢を抱くだけでは実現に至りません。ソフトバンクグループ会長の孫正義氏は、2011年に行われた若者との対談でこう語っています。「若いということは無限の夢があって、自分の持った夢に自分の人生はおおむね比例する結果を生む。小さな夢だったら、その夢の範囲の中で80%達成できるか50%なのか、だから夢はできるだけ大きいほうがいい。また、夢を達成できる人とできない人の唯一の違いは、その夢を心の底からどのくらい強い決意で達成したいと思うか。恐ろしいまでの努力をしたのかで決まる」

さらに孫氏は、「自分は画家にもなりたかった。ゴッホのような生き様が一番尊敬できる生き様で、世の中の常識と関係なしに自分が一番納得する、自分が一番描きたい絵を描く。現実が厳しいからこそ自分の人生に対するビジョンをしっかりと持ってほしい」と語っています。あのゴッホでさえ、37年の生涯において売れた絵画は「赤い葡萄畑」1点だけとされています。

ちょうど今、愛媛県美術館でアルフォン・ミュシャ展が4月12日から6月22日までの日程で開催されています。彼は現在ではアル・ヌーヴォーを代表する画家として有名ですが、若い頃は正式な美術教育を受ける資金もなく、教会の装飾などの仕事をしながら自分の技術を磨いていました。幸運にも支援者による援助でミュンヘンとパリで学ぶ機会を得ましたが、その支援が途絶えた後は、パリで挿絵の仕事などで何とか生計を立てる極めて貧しい生活を送っていました。

転機が訪れたのは34歳の時です。クリスマスの時期に、当時人気絶頂だった女優サラ・ベルナールの舞台「ジスモンダ」のポスターを制作し、それが大評判となって一夜にして彼の名は知られるようになりました。このように、ミュシャも30代半ばまで本当の成功を収めることができず、芸術家として認められるまでに長い苦労の時期を経験しました。成功後も彼の真の情熱は商業アートではなく、スラヴ民族の歴史画「スラヴ叙事詩」のような作品にありましたが、これらの作品が高く評価されるようになったのは彼の死後かなり経ってからでした。

生徒手帳146ページには、故吉田貞雄さんの「夢」という詩の冒頭が掲載されています。計画を立てても、必ずしも計画通りにいくとは限りませんが、皆さんには、この三島高校で夢を描き、明確な目標を立て、緻密に計画し、果敢に行動し、そして豊かな経験を積み重ねながら人間力を高めていってほしいと願っています。

「千里の道も一歩から」です。今日の一歩が、皆さんの輝かしい未来につながることを信じています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

新任の教職員を御紹介します

みやうち としひろ 宮内 俊洋 (校長)	いのうえ しんいち 井上 真一 (教頭)	こうず ゆき こ 高津 裕貴子 (国語)	いまい えり こ 今井 英里子 (国語)
やました ゆ か 山下 由夏 (国語)	ど い まり え 土居 真梨恵 (地公)	すぎの ゆう か 梶野 裕佳 (地公)	かまくら かずお 鎌倉 和生 (数学)
いのうえ きょうすけ 井上 恭介 (数学)	しもだ あい 下田 愛 (理科)	やまだ けんじ 山田 拳司 (理科)	さかい み わ 酒井 美和 (英語)
たかはし しょう ご 高橋 祥悟 (英語)	なかがわ あきのり 中川 明德 (商業)		

この「くすの木通信」は、教室掲示、ホームページ掲載、Teams 配信によって発行（不定期）する予定です。ぜひ、御一読いただき、学校への御理解、御協力をいただきますようお願いいたします。

【総務課】

【総務課】